第76期事業報告書

（平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで）

130TH ANNIVERSARY

Speciality Chemical Partner

個性を伸ばし　技術とサービスで　みんなの夢を実現する

荒川化学工業株式会社

Speciality Chemical Partner

個性を伸ばし　技術とサービスで　みんなの夢を実現する

C O N T E N T S

Top Message
株主の皆様へ　2

Action
創業130周年を迎えた荒川化学、
着々と新時代を築くための基盤整備が進んでおります
荒川化学は「ロジン」にこだわり続けます
中国での製紙用薬品事業も新展開しております
電子材料関連分野にも積極的に取組んでおります　3

営業の概況
セグメント別売上高推移　5

財務諸表　7

Topics
海外での取り組み
広西荒川化学工業　竣工
南通荒川化学工業　竣工
IRへの取り組み
日本経済新聞トップ対談広告掲載
「株式講演会＆荒川化学工業ＩＲフォーラム」開催　11

Information
当社は、おかげさまで創業130周年を迎えました！
「荒川歴史館」を開館しました
130周年記念マークを作りました
荒川化学のキャラクターが、もうすぐ登場します　13

会社の概要／株式の状況　14

株主の皆様へ

代表取締役社長
末　村　長　弘

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
ここに、第76期事業報告書（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）をおてもとにお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の国内経済は、輸出および生産の持ち直し、企業収益の改善、設備投資も増加を続けたため、緩やかな回復となりました。しかし一方では、石油関連製品をはじめとする素材価格が上昇、予断を許さない状況が続いております。また、米国経済は堅調に推移し、アジア主要国では中国が高成長を維持するなど景気の回復がみられました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては主力製品のシェア拡大、新規用途開発による高付加価値化、生産プロセスの合理化などによる製品コストの削減に努めてまいりました。また、水系樹脂、光硬化型樹脂、超淡色ロジンなどの環境に配慮した製品の拡販、精密部品洗浄システムや電子材料用樹脂などの電子材料関連分野での販売を強化し、さらに有機・無機ハイブリッド樹脂、クリームはんだ、ロジン系オイル固化剤の需要開拓を推進してまいりました。海外におきましては、製品の拡販、中国における市場開拓を展開してまいりました。

その結果、当期の売上高は559億91百万円（前期比8.8%増）となりました。しかしながら、石油関連製品ならびに主要原料のひとつであるロジン価格高騰の影響が大きく、営業利益は22億54百万円(同24.9%減)、経常利益は25億63百万円（同20.8%減）となりました。また当期純利益は13億29百万円（同27.2%減）となりました。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

創業130周年を迎えた荒川化学、着々と新時代を築くための基盤整備が進んでおります。

平成15年4月からスタートした中期5ヵ年経営計画も3年が経過いたしました。新時代を迎えるための峠超えに全員一丸となって挑戦しております。

当期は、当社にとりまして画期的な一年でした。それは、同時並行的に進めた中国における二つの製造子会社、広西荒川化学工業と南通荒川化学工業の稼動開始です。

荒川化学は「ロジン」にこだわり続けます。

当社は明治9年に、ロジン（松脂）、テレビン油を商う生薬商として創業しました。当時からロジンは中国より輸入しておりましたが、大正3年、国産松脂を原料とした国産ロジンの製造を開始し、名実ともに「ロジンの荒川」という評価を頂いてまいりました。しかしながら、国産松脂の採集が衰えていったことにより、やむなく昭和39年をもって国産ロジンの製造を中止しました。

そして、平成17年11月、広西荒川化学工業にて待望のロジン生産を再開しました。高品質なロジンおよびロジン誘導体を製造し、安定的に荒川化学グループに供給、それらを利用することでより付加価値の高い製品の開発・生産が可能となり、ロジン関連化学製品市場における競争力をさらに向上させることができるものと考えております。さらなる「ロジンの荒川」の発展にご期待ください。

中国での製紙用薬品事業も新展開しております。

ロジンを原料とする製紙用薬品にサイズ剤（紙にインキをにじませない薬剤）があります。当社は昭和29年、それまで製紙会社が自製していたサイズ剤の性能改良品を製造販売したことで、製紙会社との取引が拡大しました。その製紙会社のニーズに応える形で、紙を丈夫にする紙力増強剤を昭和35年に販売開始し、業界内での地位を確固たるものとしました。

紙・パルプ産業が急速に伸びている中国において、平成7年設立の梧州荒川化学工業に加え、平成16年設立の南通荒川化学工業が、製紙用薬品の製造販売を開始しました。中国経済発展の牽引役を担う上海近郊を中心に拡販してまいります。

電子材料関連分野にも積極的に取組んでおります。

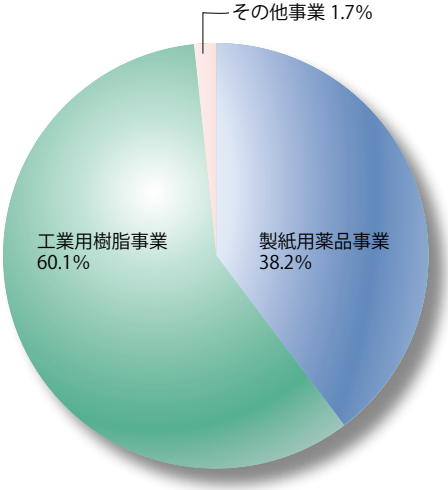
精密洗浄・はんだ関連事業の展開に加え、ファインケミカル事業においては、旺盛な需要に応えるため高圧化学工業にて増設していたクリーン環境対応生産設備が稼動しました。一層の事業拡大を図ります。

これからも荒川化学へのご支援をお願いします。

設備増強だけでなく、環境保全および法令遵守への対応も、社会的責任の観点から推進しております。また管理体制の再構築も進めており、強固な体質作りは順調です。

平成18年は、創業130周年にあたります。そこで年度指標を「歓喜の未来へ　率先 130」と定め、全社一丸となって、企業価値の向上に努めてまいります。

●売上高構成比

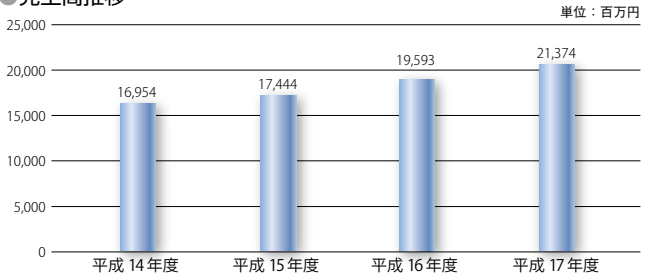


製紙用薬品事業

国内製紙業界は、国内需要に回復の傾向が見られ、全般として生産は堅調に推移しました。このような状況のもと、当事業におきましては、情報紙用薬品の減少がありましたが、塗工紙用薬品、紙力増強剤、粘着ラベルなどの剥離紙に使用されるシリコーン樹脂の売上が伸長しました。海外の子会社におきましても売上が増加しました。利益面では、国内外とも原材料価格高騰の影響に対して、製品コストの削減などによる吸収や製品価格の改定に努めましたが、減益となりました。

その結果、売上高は213億74百万円（前期比9.1%増）、営業利益は7億42百万円（同23.0%減）となりました。

●売上高推移

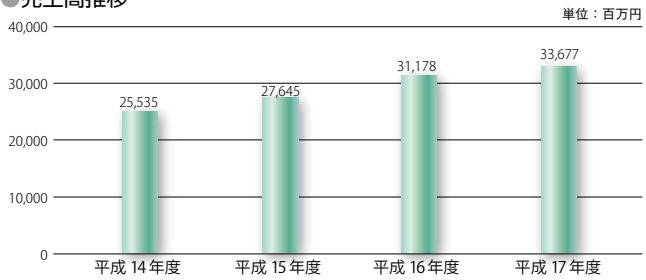


工業用樹脂事業

国内の印刷インキ、塗料、粘着・接着剤および合成ゴム業界は、一部に低調な動きが見られたものの概ね堅調に推移しました。また電子工業業界は、需要の回復が見られ、産業用電子機器、電子部品・デバイスを中心に堅調に推移しました。このような環境のもと、当事業におきましては精密部品洗浄剤および粘着・接着剤用の水素化石油樹脂の輸出が減少しましたが、オフセットインキ用樹脂、環境に配慮した光硬化型樹脂や塗料用樹脂の売上が順調に推移しました。新規分野では超淡色ロジン、電子材料用樹脂の売上が伸長しました。また、日本ペルノックスにおきましては、需要に回復の傾向が見られたものの売上は減少となりました。海外の子会社におきましては売上が増加しました。利益面では、高付加価値製品を拡販し、国内外とも原材料価格高騰の影響に対しては、製品コストの削減などによる吸収や製品価格の改定に努めましたが、減益となりました。

その結果、売上高は336億77百万円（前期比8.0%増）、営業利益は14億17百万円（同29.4%減）となりました。

●売上高推移

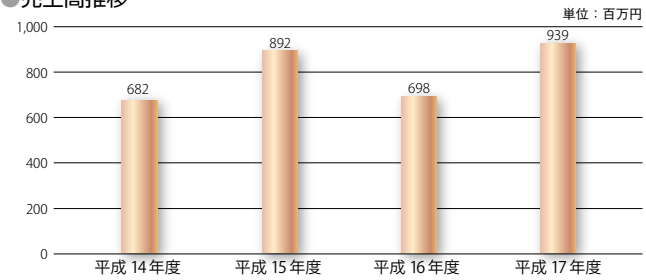


その他事業

洗浄機械の売上が増加したことから、増収増益となりました。

売上高は9億39百万円（前期比34.5%増）、営業利益は94百万円（同216.8%増）となりました。

●売上高推移



連結貸借対照表

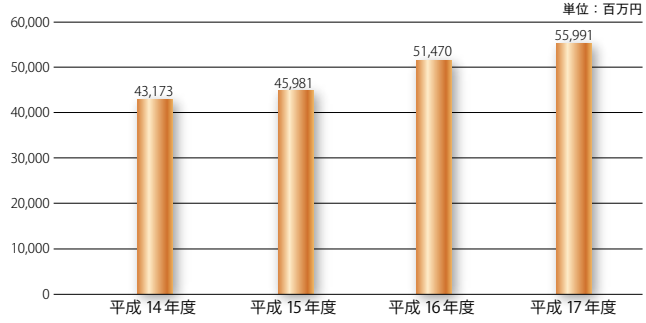
（単位：百万円）

科　目	当　期（18.3.31 現在）	前　期（17.3.31 現在）
[資産の部]		
流　動　資　産	**35,451**	**32,585**
現金及び預金	4,187	5,513
受取手形及び売掛金	21,167	19,170
たな卸資産	8,492	7,014
その他	1,725	1,003
貸倒引当金	△ 122	△ 115
固　定　資　産	**26,561**	**22,054**
有形固定資産	**17,988**	**15,151**
建物及び構築物	6,088	5,448
機械装置及び運搬具	5,871	3,935
土地	5,240	4,535
その他	788	1,231
無形固定資産	**924**	**1,021**
投資その他の資産	**7,648**	**5,881**
投資有価証券	7,036	5,254
その他	892	920
貸倒引当金	△ 280	△ 293
資　産　合　計	**62,012**	**54,640**

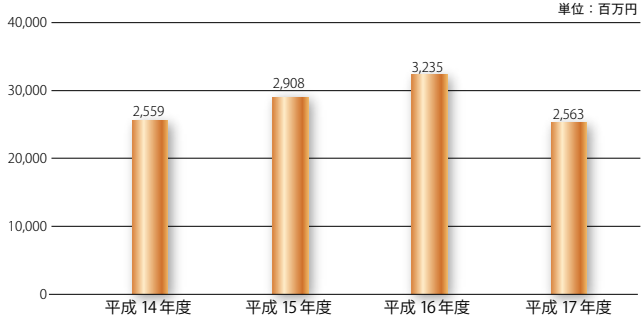
科　目	当　期（18.3.31 現在）	前　期（17.3.31 現在）
[負債の部]		
流　動　負　債	**21,455**	**19,171**
支払手形及び買掛金	10,910	9,863
短期借入金	6,530	5,281
その他	4,014	4,025
固　定　負　債	**3,833**	**3,457**
長期借入金	254	802
退職給付引当金	1,976	1,947
役員退職給与引当金	272	323
その他	1,328	384
負　債　合　計	**25,289**	**22,629**
[少数株主持分]	**2,057**	**1,680**
[資本の部]		
資本金	**3,128**	**2,365**
資本剰余金	**3,350**	**2,587**
利益剰余金	**25,482**	**24,519**
その他有価証券評価差額金	**2,625**	**1,273**
為替換算調整勘定	**84**	**△ 412**
自己株式	**△ 3**	**△ 3**
資　本　合　計	**34,666**	**30,330**
負債、少数株主持分及び資本合計	**62,012**	**54,640**

業績の推移

売上高



経常利益



連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当　期（17.4.1 から 18.3.31 まで）	前　期（16.4.1 から 17.3.31 まで）
売上高	55,991	51,470
売上原価	44,212	39,280
売上総利益	11,778	12,190
販売費及び一般管理費	9,524	9,188
営業利益	2,254	3,001
営業外収益	440	352
営業外費用	131	118
経常利益	2,563	3,235
特別利益	53	143
特別損失	69	66
税金等調整前当期純利益	2,547	3,312
法人税、住民税及び事業税	1,021	1,238
法人税等調整額	0	36
少数株主利益	196	210
当期純利益	1,329	1,826

連結剰余金計算書

（単位：百万円）

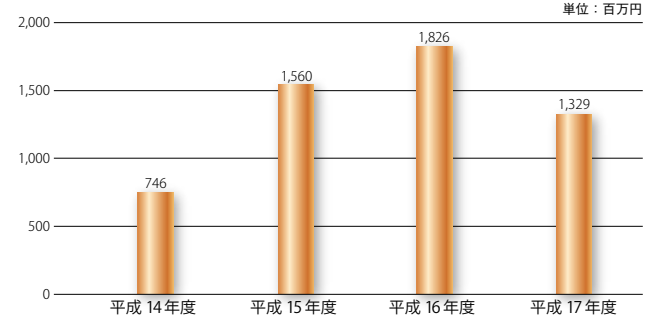
科　目	当　期（17.4.1 から 18.3.31 まで）	前　期（16.4.1 から 17.3.31 まで）
［資本剰余金の部］		
資本剰余金期首残高	2,587	2,587
資本剰余金増加高	762	—
資本剰余金期末残高	3,350	2,587
［利益剰余金の部］		
利益剰余金期首残高	24,520	23,023
利益剰余金増加高	1,329	1,826
当期純利益	1,329	1,826
利益剰余金減少高	367	330
配当金	331	299
取締役賞与	34	27
従業員賞与等	0	2
利益剰余金期末残高	25,482	24,519

連結キャッシュ・フロー計算書

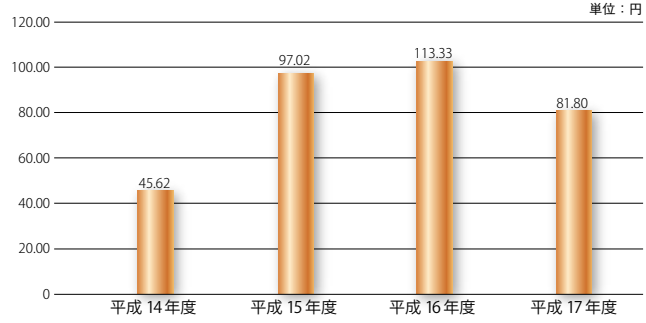
（単位：百万円）

科　目	当　期（17.4.1 から 18.3.31 まで）	前　期（16.4.1 から 17.3.31 まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,015	2,975
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,637	△ 1,885
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,923	△ 832
現金及び現金同等物に係る換算差額	269	△ 18
現金及び現金同等物の増加額（又は減少額）	△ 1,429	239
現金及び現金同等物の期首残高	5,175	4,936
現金及び現金同等物の期末残高	3,746	5,175

当期純利益



1 株当たり当期純利益



貸借対照表

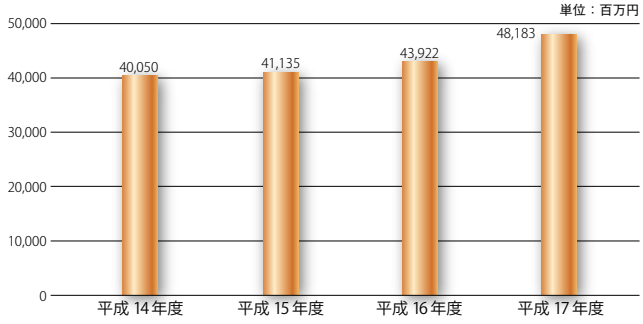
（単位：百万円）

科　目	当　期（18.3.31 現在）	前　期（17.3.31 現在）
[資産の部]		
流　動　資　産	**28,011**	**25,728**
現金及び預金	2,081	2,124
受取手形	1,636	1,792
売掛金	17,079	15,262
たな卸資産	5,704	5,337
その他	1,598	1,301
貸倒引当金	△　90	△　90
固　定　資　産	**25,648**	**22,555**
有形固定資産	**12,794**	**12,157**
建物	3,526	3,616
機械装置	3,255	3,027
土地	4,583	3,875
その他	1,429	1,637
無形固定資産	**155**	**98**
投資その他の資産	**12,698**	**10,299**
投資有価証券	6,658	4,907
その他	6,246	5,626
貸倒引当金	△　206	△　235
資　産　合　計	**53,659**	**48,284**

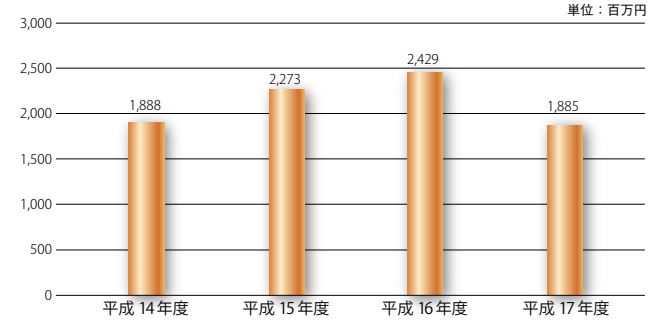
科　目	当　期（18.3.31 現在）	前　期（17.3.31 現在）
[負債の部]		
流　動　負　債	**17,237**	**16,623**
支払手形	1,886	1,711
買掛金	7,282	6,738
短期借入金	5,100	4,900
1 年以内返済予定長期借入金	225	208
その他	2,742	3,064
固　定　負　債	**3,496**	**2,477**
長期借入金	246	172
退職給付引当金	1,686	1,676
役員退職給与引当金	241	246
その他	1,321	382
負　債　合　計	**20,733**	**19,100**
[資本の部]		
資本金	**3,128**	**2,365**
資本剰余金	**3,350**	**2,587**
資本準備金	3,350	2,587
利益剰余金	**23,845**	**22,966**
利益準備金	307	307
任意積立金	21,441	20,283
当期未処分利益	2,096	2,375
その他有価証券評価差額金	**2,606**	**1,268**
自己株式	**△　3**	**△　3**
資本合計	**32,925**	**29,183**
負債・資本合計	**53,659**	**48,284**

業績の推移

売上高



経常利益



損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当　期（17.4.1 から 18.3.31 まで）	前　期（16.4.1 から 17.3.31 まで）
売上高	**48,183**	**43,922**
売上原価	39,612	34,811
売上総利益	**8,570**	**9,110**
販売費及び一般管理費	7,412	7,304
営業利益	**1,158**	**1,806**
営業外収益	805	681
営業外費用	79	59
経常利益	**1,885**	**2,429**
特別利益	52	143
特別損失	50	60
税引前当期純利益	**1,886**	**2,511**
法人税、住民税及び事業税	**650**	**820**
法人税等調整額	**△ 6**	**56**
当期純利益	**1,243**	**1,634**
前期繰越利益	**1,011**	**883**
中間配当額	**157**	**142**
当期未処分利益	**2,096**	**2,375**

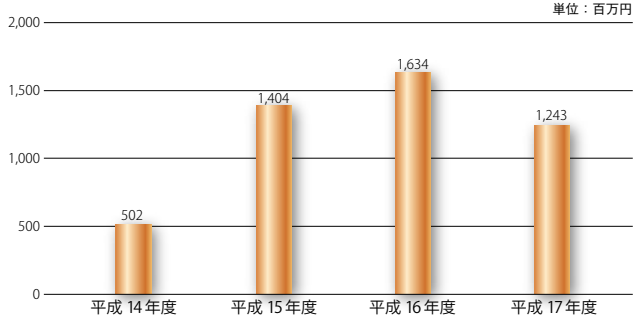
利益処分

（単位：千円）

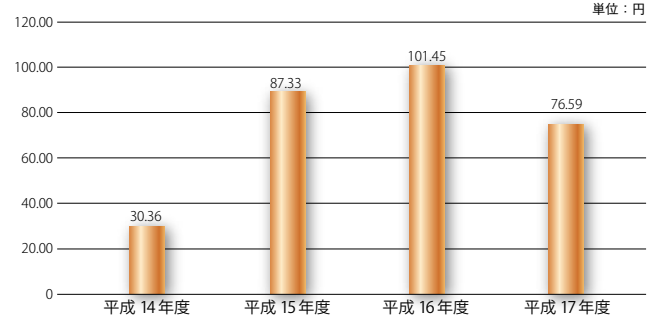
科　目	当　期（18.6.22 現在）	前　期（17.6.23 現在）
当期未処分利益	2,096,630	2,375,903
特別償却準備金取崩額	1,853	405
固定資産圧縮積立金取崩額	76,746	13,942
計	2,175,231	2,390,252
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	167,870（1 株につき 10 円）	173,658（1 株につき 11 円）
取締役賞与金	25,000	33,000
特別償却準備金	—	8,358
固定資産圧縮積立金	58,077	64,060
別途積立金	800,000	1,100,000
次期繰越利益	1,124,283	1,011,175

（注）平成 17 年 12 月 1 日に157,871,160 円（1 株につき 10 円）の中間配当を実施しました。

当期純利益



1 株当たり当期純利益



海外での取組み

広西荒川化学工業　竣工

中国広西壮族自治区梧州市で、ロジンおよびロジン誘導体の新生産拠点である広西荒川化学工業が、2006年3月3日に竣工しました。

当社の主要原料であるロジンのより安定的な確保と生松脂からロジンおよびロジン誘導体までを一貫生産することによる効率化と品質の向上を目的に、2004年6月に会社設立、計画通りに設備建設が進み、無事に全ての工事が完了し竣工しました。

南通荒川化学工業　竣工

中国上海近郊の江蘇省南通市で、2006年5月17日に、南通荒川化学工業が竣工しました。

当社が単独出資で設立し、製紙用薬品を生産しております。主力製品は紙力増強剤です。中国での紙・板紙の需要の拡大に対応し、製紙用薬品の供給を通じて、中国製紙産業の発展に寄与してまいります。

IRへの取組み

日本経済新聞トップ対談広告掲載

2006年2月28日の日本経済新聞夕刊に当社社長の末村長弘とエッセイストの安藤和津さんの対談広告を掲載しました。

この日本経済新聞へのトップ対談広告は今回で3回目となります。IR活動の一環として、企業認知度の向上、企業価値の増大を目的としており、今回は「ロジンの化学をキーテクノロジーに新たな飛躍へ」をテーマとして、会社や製品についてだけでなく、当社の明るい将来に向けた話題も多く紹介しました。

「株式講演会＆荒川化学工業IRフォーラム」開催

2006年3月8日、ラジオNIKKEI主催の「株式講演会＆荒川化学工業IRフォーラム」の模様が3月15日、同ラジオにて放送されました。この個人投資家向けのフォーラムは通算6回目です。

ロジンをはじめ当社の歴史や事業内容、中期経営計画の説明に始まり、当社の製品が生活の中のどんなところで使われ、どう役立っているかを具体例を挙げながら説明しました。また、会場の入り口には、当社製品のほか当社の製品が使われている最終流通品を展示しました。

このIRフォーラムのような取り組みをより充実させるとともに、企業広告も積極的に展開し、当社の認知度向上・企業価値向上に努めてまいります。

当社は、おかげさまで創業130周年を迎えました！

これを記念した企画をご紹介します。

「荒川歴史館」を開館しました

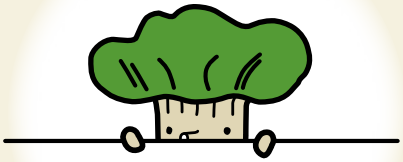
社内で保存しておりました資料を整備し、リニューアルしたものです。初代荒川政七が創業してから今日までの歩みや当社の発展に関わった先人達の功績、ロジンの採取方法やその歴史などを展示しています。

130周年記念マークを作りました

130TH ANNIVERSARY

松の葉をモチーフとし、右上がりの発展して行く明るい将来を表現しています。松の葉は5枚で1組になっている五葉松です。盆栽の代表格のひとつで、おめでたい松であることはもちろん、名前からも「御用を待つ」といって縁起が良いとされています。通常の松の葉は2枚で1対ですが、五葉松は葉がふさふさとして立派になるのが特徴です。このマークをご覧になった時は、当社の思いを感じてください。

のぞいてるのは…だあれ？
荒川化学のキャラクターが、もうすぐ登場します。



こっそりのぞいてるのは…だれでしょう？
実は、デビューを控えた当社のキャラクターです。松の妖精の子供で、ふだんは松林に住んでいますが、最近は街で遊ぶこともあるようです。私たちの暮らしに、興味津々みたい。
もうすぐ、みなさんにお目にかかります。
どうぞお楽しみに。

会社概要（平成 18 年 3 月 31 日現在）

商号	荒川化学工業株式会社
創業	明治 9 年（1876年）
設立	昭和 6 年 1 月（1931年）
資本金	31 億 2,830 万円
従業員	645 名
主な事業内容	次の製品の製造および販売 製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、合成ゴム重合用乳化剤、粘着・接着剤用樹脂、食品添加物用樹脂、電子材料用樹脂、精密部品洗浄システムおよびその関連機器
ホームページアドレス	http://www.arakawachem.co.jp

役　員（平成 18 年 6 月 22 日現在）

取締役会長	石部修平
代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	草野　倜
常務取締役	中尾光良
取締役	山中勝之
取締役	荒川壽正
取締役	松本圭三
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
監査役（常勤）	中安輝雄
監査役（常勤）	川谷公雄
監査役	岩城本臣
監査役	鈴木宗夫

（注）監査役岩城本臣および鈴木宗夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況（平成 18 年 3 月 31 日現在）

会社が発行する株式の総数	44,000,000 株
発行済株式の総数	16,792,000 株
株主数	3,397 名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	議決権比率
荒川化学従業員持株会	866 千株	5.16%
株式会社三菱東京ＵＦＪ銀行	784	4.67
荒川壽正	772	4.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	551	3.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	507	3.02
ソシエテジェネラルバンクアンドトラスト	461	2.74
荒川彦二	350	2.08
三菱化学株式会社	338	2.01
株式会社みずほ銀行	330	1.97
株式会社三井住友銀行	330	1.96

グループ会社の状況（平成 18 年 3 月 31 日現在）

会社名	資本金	議決権比率
南通荒川化学工業有限公司	5,500千米ドル	100%
高圧化学工業株式会社	60百 万 円	100%
日本ペルノックス株式会社	60百 万 円	85%
広西荒川化学工業有限公司	12,000千米ドル	70%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226千新台幣元	60%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500千米ドル	60%
ARAKAWA CHEMICAL（THAILAND）LTD.	119,000千タイバーツ	50%
ARAKAWA CHEMICAL（USA）INC.	1,400千米ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100百 万 円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000千米ドル	60%
ARAKAWA Europe GmbH	52千ユーロ	40%
厦門荒川化学工業有限公司	5,603千米ドル	間接60%

株主メモ

決算期日	3 月 31 日
定時株主総会	6 月中
配当金受領 株主確定日	期末配当金 3 月 31 日 中間配当金 9 月 30 日
基準日	3 月 31 日 その他必要があるときは、あらかじめ公告をして定めます。
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 5 号 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 （お問い合せ先）	大阪市中央区伏見町三丁目 6 番 3 号 三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 電話 0120-094-777（通話料無料）
同取次所	三菱ＵＦＪ信託銀行株式会社　全国本支店 野 村 證 券 株 式 会 社　全国本支店 株式関係のお手続き用紙のご請求は、 次の三菱ＵＦＪ信託銀行の電話およびホームページでも 24 時間承っております。 電話（通話料無料） 0120-244-479（本店証券代行部） 0120-684-479（大阪証券代行部） ホームページアドレス http://www.tr.mufg.jp/daikou/

荒川化学工業株式会社
大阪市中央区平野町1丁目3番7号 〒541-0046
電話 06-6209-8500（代表）

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK™
地球に優しい大豆インクと再生紙を使用しております。
この SOY INK マークは米国大豆協会承認マークです。